

のぼりべつ

広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

9月25日金、総合体育館を会場に「第33回登婦連があちゃんオリンピック」(登別市婦人団体連絡協議会主催)が開かれました。

登婦連加入団体をはじめ、老人クラブ連合会や農協、商工会議所、町内会などから参加した165人は、数々のユニークな競技で大奮闘。応援席(写真)も参加者の奮闘ぶりに熱い声援を送っていました。



特集

登別市の 財政状況

平成9年度の歳入は前年比1.5%増

特集

市の歳入・歳出は？

市の歳入・歳出は？

市は、市民のみなさんに、より一層市政に対する理解と関心を深めていただくため、『広報のぼりべつ』の中で、市の財政状況を年2回公表しています。

今号では、平成9年度決算と平成10年度上半期（4月～9月）の予算執行状況などについて、市職員とN町内会との懇談会『市職員出前フリートーク』の形式でお知らせします。（今回の懇談はフィクションで、登場人物は実在の人物ではありません）

登別市の財政状況を教えて



本日は、「市職員出前フリートーク」をご利用いただき、ありがとうございます。

出前のご注文は「登別市の財政状況」ということでしたので、早速、懇談を始めさせていただきます。

それではまず、表1をご覧ください。各会計の「平成9年度決算額」は、一般会計で歳入が約236億円、歳出が約232億円となり、約4億円を翌年度に繰り越しました。

平成8年度に比べて歳入が約9%増、歳出は約8%増加していますが、これは主に「新ごみ処理施設」の建設に着手した影響です。

また、国民健康保険会計が、約4億円の赤字になって、ますが、これ



U子さん

一家の家計を預かる主婦として市の財政に興味を持ち、今回の出前を提案。



P太郎さん

N町内会の会長。今回の出前で、数字のみでは分からない部分を質問したいと考えている。



S財政係長

財政担当通算10年目のベテラン。出前を申し込んだN町内会の疑問・質問に答える講師役。

市職員
出前
フリートーク



広聴軒

知りたいこと

話したいこと

考えていることは

ありませんか？

『市職員出前フリートーク』は、市職員が少人数（20人以下）のグループや団体のもとに出向き、『まちづくり』や『市に対する要望』などについて、ざっくばらんに懇談する制度です。

また、市が取り組んでいる事業や計画、制度など（公共下水道事業、財政状況、介護保険制度など）、みなさんが知りたい情報も提供しますので、気軽にお申し込みください。

なお、出前メニューや申込方法などについては、お問い合わせください。

申し込み・問い合わせ

企画広報室

(☎85)1122



表1 平成9年度決算額

区分	一般会計	特別会計			
		国民健康保険会計	学校給食事業会計	公共下水道事業会計	老人保健会計
歳入	236億2,511万円	41億4,504万円	4億772万円	26億8,009万円	58億9,894万円
歳出	232億506万円	45億5,110万円	4億772万円	26億7,997万円	59億739万円
収支額	4億2,005万円	△4億606万円	0万円	12万円	△845万円

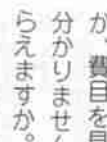
表2 平成9年度歳入内訳 (前年度比)

費目	平成9年度	平成8年度	伸び率
市税	57.6億円	55.0億円	4.7%
国・道支出金	54.1億円	49.4億円	9.5%
地方交付税	49.0億円	46.1億円	6.3%
市債	35.2億円	21.8億円	61.5%
その他	40.4億円	44.6億円	△9.4%
歳入合計	236.3億円	216.9億円	8.9%

まず、市民税や固定資産税などの市税についてですが、平成9年度は約58億円、平成10年3月31日現在の人口で単純に計算すると一人当たり約10万2千円の市税を市民のみならず、



市の主な収入としては、市税、地方交付税、国や道の支出金、市債などがあります。



なるほど。表2には平成8年度と9年度の歳入の内訳が記載されていますが、費目を見ただけでは意味がよく分かりません。ちょっと説明してもらえますか。



市に負担していただいたことになりません。また、地方交付税は、所得税や法人税、消費税など、国に納められた税金の一部が市町村に交付されるものです。市にとっては第二の市税とも言えますね。

市収入の内訳はどうなっているの？



登別市の

財政状況

表3 平成9年度歳出内訳 (前年度比)

費目	平成9年度	平成8年度	伸び率
総務費	12.3億円	12.1億円	1.7%
民生費	45.7億円	43.0億円	6.3%
衛生費	23.1億円	7.6億円	203.9%
土木費	51.2億円	54.3億円	△5.7%
消防費	3.2億円	1.6億円	100.0%
教育費	12.3億円	11.1億円	10.8%
公債費	19.4億円	18.0億円	7.8%
給与費	50.5億円	52.8億円	△4.4%
その他	14.4億円	13.9億円	3.6%
歳出合計	232.1億円	214.4億円	8.3%

また、温泉バスやホームヘルプサービスなどに補助金が交付されています。市債とは、市の借金(長期借入金)のことです。一般会計では約35億円で、平成8年度の22億円に比べ約13億円増加しています。これも、「新ごみ処理施設」の建設が始まったことによるものです。

国・道支出金は、市が行っている特定の仕事に対して、国や道が交付する補助金や委託金などのことです。例えば、新ごみ処理施設の建設、デイサービスやホームヘルプサービスなどに補助金が交付されています。

市に負担していただいたことになりません。また、地方交付税は、所得税や法人税、消費税など、国に納められた税金の一部が市町村に交付されるものです。市にとっては第二の市税とも言えますね。

まず衛生費は、前年比203.9%増になっていますが、これも平成9年度から3年間で行う「新ごみ処理施設」の建設が始まったことが大きな理由です。3年間の総事業費は80億

平成9年度は全体で約8億の増ですが、衛生費と消防費の伸び率が非常に大きくなっています。

表3は歳出についての内訳ですね。この中で、衛生費や消防費がすごく増加しています。理由があるんですか？

はい、この表は、どういう目的のためにいくら使われたかが分かるように目的別に費目を分類し、歳出の伸び率を出したものです。例えば教育費というのは、小・中学校をはじめとする教育に必要な経費を表しています。

最大のプロジェクト

「新ごみ処理施設」



※この施設は、厚生年金・国民年金の保険料積立金から融資を受けて整備を進めています。

円を超え、平成9年度だけでも約18億円かかっています。平成8年度の衛生費が8億円弱ですから、いかに大きな事業なのか分かっていただけたらと思います。

次に消防費ですが、約1億7千万円をかけて新たに「はしご付消防ポンプ自動車」を購入しました。購入費用は平成8年度の消防費とほぼ同額ですから、平成9年度はその約2倍の決算額になったわけです。このように、衛生費や消防費以外にも、新しい事業の実施や事業の終了などで、決算額に増減が生じるわけです。

また、公債費はいろいろな事業のための借金の返済に充てるもので、返済が終了するものがある一方、新たに返済が始まるものもあるため、毎年変動があります。



借金返済額が約19億円なので、先程、歳入の内訳で説明してもらった市債（長期借入金）が約35億円ですから、借金はだんだん増えていくことになりませんか？



その通りです。支払額より借入額が多ければ借金は増えていくことになりますね。

でも、どうしてもやらなければならぬ大型事業もあります。平成9年度から平成11年度の3年間で「新ごみ処理施設」の建設も、現在使用している千歳最終処分場が平成11年度で満杯になることなどから、平成11年度中に完成しなければなら

ません。借入額約35億円のうち約15億円は「新ごみ処理施設」分です。



先程3年間で施設を完成させるとおっしゃいましたが、これくらいは借りなければならぬですか？



3年間の合計は約70億円です。内訳は、平成9年度が約15億円、平成10年度が約38億円、平成11年度が約17億円となっています。



すこい金額ですね。70億円を3年で割ったら年平均約23億円。平成8年度の借入額は確か約22億円でしたよね。この3年間は、「新ごみ処理施設」だけで例年の一般会計全体の借金の額と同じくらいの額を借りることになるんですね。これから返済も大変になると思っていますが。



「新ごみ処理施設」分の借金は、それぞれ借りた年度の翌年度からおおむね15年間で元金と利子を返済していきます。

返済は最初の3年間、元金を据置きしますので、平成13年度から15年度にかけて元金の返済が始まることになります。

すべての元金の返済が始まる平成15年度には、通常の借金返済額のほかに約6億5千万円を返していかなければなりませんので大変な負担です。ただし、この6億5千万円の半分以上にあたる約3億5千万円については、国から地方交付税として市に

登別市の

財政状況



交付される見込みですので、実質的には約3億円の負担増となります。

多額の借金、市の財政は本当に大丈夫？



金額が大きすぎてピンときませんが、平成15年ごろには大変になることは確かです。本当に大丈夫なんでしょうか？



そうですね。市町村の財政の状況を判断するときには、財政力指数や経常収支比率など、いろいろな指標が使われますが、ここでは借金（起債）の返済額が増えるという状況ですから、「起債制限比率」で説明しましょう。

「起債制限比率」とは、簡単にいうと毎年の借金の返済額が、自由に使える収入の何割を占めているかを表すものです。サラリーマンで言えば、住宅ローンが給料の手取額の何割を占めているかといったようなものです。この割合が30%以上になると、市は借金をすることができなくなります。

登別市のこの割合は、平成9年度で12.6%でした。今後は、経済状況など不確定な要素がたくさんありますが、仮に「新ごみ処理施設」以外の借金を今年と同じペースで借りていったとすると、13～15%で推移するものと思われれます。



30%には達しないんですね。安心しました。でも、30%というのはもうだめだという基準はすよね。実際には、

表5 市有財産の内訳 (平成9年度末)

土地	562万3,100㎡	
建物	24万7,400㎡	
基金等	現金	34億8,316万円
	土地	15万1,800㎡
債権	9億7,947万円	
その他	2億5,158万円	

表4 市が支払わなければならない債務 (平成9年度末)

区分	債務の残高	市民一人当たりの債務
市債	294億9,822万円	52万5,132円
債務負担行為	8億8,507万円	1万5,756円
(株)登別振興公社	4億237万円	7,163円
登別市土地開発公社	28億9,600万円	5万1,555円
合計	336億8,166万円	59万9,606円

表6 平成10年度予算執行状況 (平成10年9月30日現在)

会計名	当初予算額	補正額	現行予算額	歳入		歳出	
				収入済額	収入率	支出済額	支出率
一般会計	249億2,600万円	14億 176万円	263億2,776万円	89億1,531万円	33.9%	85億9,199万円	32.6%
国民健康保険特別会計	41億4,630万円	4億6,220万円	46億 850万円	11億 100万円	23.9%	19億9,046万円	43.2%
学校給食事業特別会計	4億 610万円	0万円	4億 610万円	9,138万円	22.5%	1億5,975万円	39.3%
公共下水道事業特別会計	27億4,980万円	4億4,000万円	31億8,980万円	3億 715万円	9.6%	10億9,130万円	34.2%
老人保健特別会計	61億5,340万円	1,713万円	61億7,053万円	25億5,410万円	41.4%	27億 201万円	43.8%
合計	383億8,160万円	23億2,109万円	407億 269万円	129億6,894万円	31.9%	145億3,551万円	35.7%

表7 一時借入金の状況 (借入現在高)
(平成10年9月30日現在)

一般会計	13億円
国民健康保険特別会計	7億円
公共下水道事業特別会計	2億円

表8 平成10年3月31日現在の人口

人数	世帯数
56,173人	22,832世帯

市の財政に関する問い合わせ
財政課 (☎85 1331)

どのくらいが理想なんですか。



財政の状況は、起債(借金)の状況だけで判断することはできません。いろいろな状況を総合的に判断しなければなりません。この起債制限比率でいえば、15/16割がボーダーラインといえるでしょう。

でも、借金は少ないほど返済額も少なくなり、福祉や教育に充てられるお金が多くなるわけですから、これまで同様、適切な運用に努めていかなければならないと思っています。

平成10年度の 当初予算は約383億円



次は、今年度予算の9月までの執行状況について説明しましょう。

市の年間予算は、毎年3月に行われる定例市議会で決められます。これを「当初予算」といいます。また、一年間のうちには、法律の改正や突発的な災害など、当初予算

を編成するときに予測できなかったことが発生する可能性がありますので、当初予算のほかに「補正予算」というものがあります。表6をご覧ください。今年度は、現在までに一般会計と特別会計を合わせて、約23億円を増額補正しています。



当初予算の383億円とか、補正予算の23億円なんて、私たちには想像もできない金額ですね。具体的にはどういった内容なんですか。



今年の予算は、例年と比較してちょっと特殊なんです。当初予算を編成するときは、国も地方公共団体も、膨らんでしまった借金を減らそうというところで、公共事業は抑制気味だったのですが、金融機関の経営破たんなどの影響で景気がますます冷え込んできたため、国も地方も大型補正をして景気を回復しようというのがそのねらいなんです。



具体的には、「新ごみ処理施設」や「公共下水道」、「市民会館大ホール」の改造などがあります。



ああ、「広報のほりべつ10月1日号」や新聞に載っていました。市民会館の大ホールの客席を、舞台が見やすいよう改造するんですね。



改造には約1億5千万円が必要で、そのほとんどを借金(市債)でまかなわなければならぬんですが、今回に限って、翌年度以降に国から地方交付



税として交付される見込みになったんですよ。えっ。じゃあ、実質的には6割程度の負担で済むということですか。それって、ものすごくお得ですね。



そのとおりですね。良いチャンスですから、予算の都合で実施したくてもできなかった事業や来年度以降に予定していた事業について実施することにしたんです。



有利なのは今回限りなんじゃないですか。これまでにも、今回のような有利な制度を利用したことはあるんですか。



今回の補正予算は特別なんです。有利な制度は従来からほかにもあり、実際にその制度を利用して実施した事業がいくつもあります。例えば、「しんた21」や「岡志別の森運動公園」の新設、市役所や市民会館のエレベーター設置などが、その代表的なものです。登別市もそうですが、やらなければならぬ事業がたくさんあるにもかかわらず、一般財源(自由に使えるお金)の少ない地方自治体では、毎年度、事業を実施するときに、できるだけ有利な方法を利用するよう、検討を重ねながら行っています。



知らないことが多くて難しくなりましたけれど、大変勉強になりました。家計と一緒にやりくりが大変でしょうけど、これからも市民のためにがんばってくださいね。



5

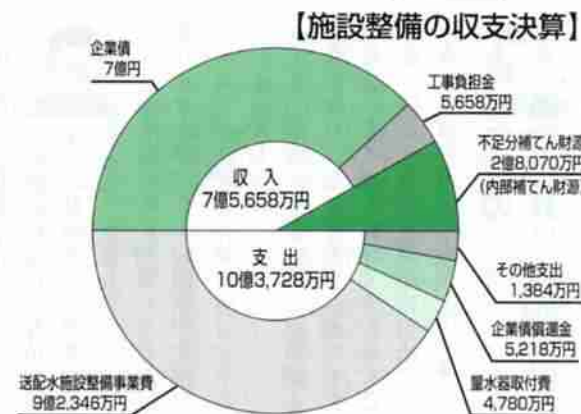
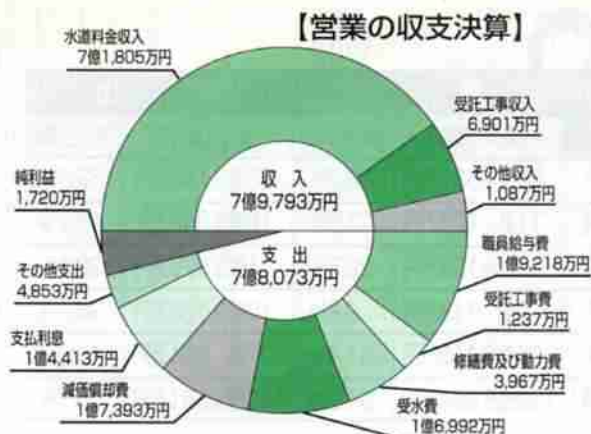
水道事業会計 決算状況

市は、おいしく安全な水を確保するため、計画的に水道事業を運営しています。

今号では、平成9年度の収支決算と平成10年度の予算執行状況などをグラフと表でお知らせします。

給水状況

登別市の給水人口は、5万4千972



水道事業会計

決算状況

水道事業会計に関する問い合わせ 業務課 (☎855501)

長期借入金残高 (平成9年度末現在)

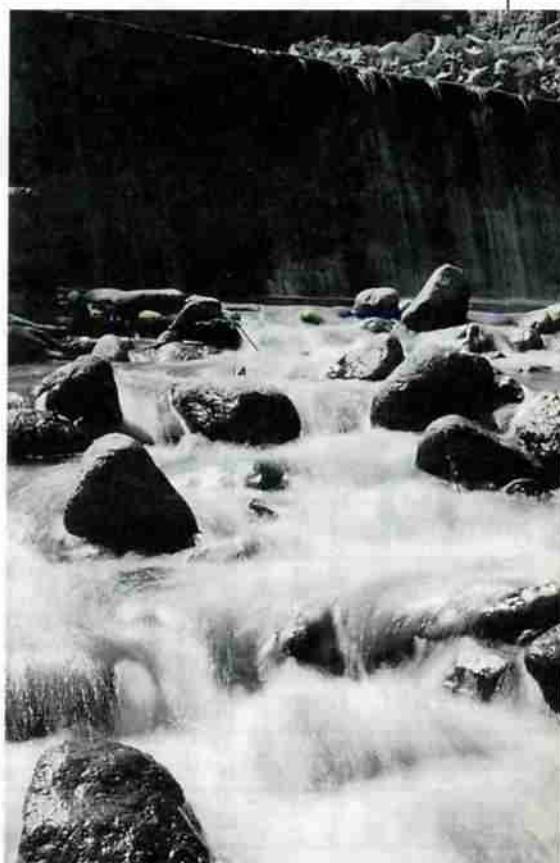
元金	34億9,385万円
利子	20億2,588万円
合計	55億1,973万円

平成10年度予算執行状況 (平成10年9月30日現在)

区分	予算現額	執行額	執行率	
営業に係る収支	収入	9億5,768万円	4億2,241万円	44.1%
	支出	8億7,702万円	3億8,133万円	35.1%
施設整備に係る収支	収入	6億6,100万円	3,640万円	5.5%
	支出	9億8,530万円	4億1,309万円	41.9%
合計	収入	16億1,868万円	4億5,881万円	28.3%
	支出	18億6,232万円	7億2,122万円	38.7%

また、いつでも安全でおいしい水を供給するために、配水池の新設や老朽化した配水管の布設替えなどを積極的に行いました。

今後も各施設の改善を計画的に実施し、安定した水の供給に努めます。



特集 読後集

私の
特集の

「未来の笑顔を守るために」

(8月1日号)

未来の笑顔を守る
国を目指して



「広報のぼりべつ」では、毎月、私たちのまちに関することをテーマに『特集』を組んでいます。そのテーマは、犬猫問題、ボランティア活動、市の財政状況などさまざまです。

『特集』で取り上げた問題について、どう考えるかは千差万別。みなさんは『特集』を読んでどんな感想をお持ちになりましたか。

今号では、市民のみなさんから『特集』に対して寄せられた声をご紹介します。

みて体得しているところ。平和を得るための戦争を起こすなどという愚かな考えを捨てて、平和なうちにさらなる平和を得られるよう真剣に努力すべきではないでしょうか。

花が散り、若葉が萌えて、目の覚めるような緑の山野に、目の覚めるような青空が続いている。身軽な装いに薫風が心地よく吹き抜け、子どもたちの喜びの声のかたにこいのぼりがハタハタと泳いでいる。初夏である。この季節にも、日本の自然の良さが生き生きと脈打っている。自然や風土だけではない。歴史にはぐくまれた数多くの精神的遺産がある。

昭和20年8月、第2次世界大戦終戦時の私は小学2年生でした。アメリカの「B-29」という飛行機の来襲、空襲警報発令という校内放送で、学校近くの山奥に避難しました。日常、家に居るときも、夜はまくら元にいつも防空ずきん、衣類などをそろえていました。室蘭も艦砲射撃を受け、多数の死傷者がました。日本製鋼所、日本製鐵(現在、新日本製鐵)を目標としたイタンキ浜からの艦砲射撃、空から飛行機の射撃。戦争による数多くの悲惨な姿が目につかびます。

数年前に、広島、長崎に赴き、原爆ドームなどを見学しました。核兵器の恐ろしい威力と廃墟となったまち、人間の死体などの写真を見て、その悲惨さ、戦争の恐ろしさを身に染みて感じました。戦争の悲惨さは、世界中のだけれど身に染

合って、この国の繁栄と平和と幸福を一筋に探し求めることができないだろうか。私たちが日本人としての願いが一つなら、必ずそこに高い調和が生まれ、未来の笑顔を守る日本になるでしょう。

(若草町・広瀬暁さん)



「ボランティア十人十色」
(5月1日号)
老人クラブ21世紀
プラン

5月1日号の特集を読んで、私たち老人には一体なにができるのだろうかと考えました。現代は、長生きできる時代。しかし、寝たきり、痴ほうの問題など、年を取ると手のかかることが非常に多くなります。家族の方だけで面倒が見きれない場合は、ヘルパーさんに介護をお願いするわけですが、そのヘルパーさんの手が足りない時代が来ています。このときにお世話してくださるのがボランティアの方なのです。ですから、常日ごろから自分の健康に留意し、精神的・肉体的・社会的に調和の取れた日常生活を送ることが大切です。毎日の生活の中に生きがいがあることを自覚し、隣近所の付

き合いを大切に、自分勝手な行動を慎み、おんぶにだっこの生活ではなく、21世紀に向けて自分の将来が輝かしいものになるよう頑張っていくかなければならないと強く心に感じていた毎日です。

現在、私が所属している登別市老人クラブ連合会女性部では、ボランティアの一役を買って、独り暮らしのお年寄りの方に安否の電話をかけております。みなさん、この電話を大変喜んで待っていてくださいます。体の調子の悪い日などは、いろいろと話を聞いて、お互いに知恵を出し合ってやっております。そして、お互いに喜びを感じながら、当番をさせていただきます。また、昨年4月からは、発展途上国の恵まれない人々と古切手を集め始めました。(特に結核患者の薬代など)

各単位クラブごとに、例会の都度持ち寄った古切手は1万8千枚ほどになり、社会福祉の方へ提出いたしました。

私たち老人には、体力を使うことや難しい技はできませんが、古切手の収集にはこれからも頑張っていく、世界中の恵まれない方たちの幸せのために役に立ちたいと女性部一同、頑張っております。

(千歳町・木村恵美子さん)

あなたの
声
が
広報をつくります

特集読後

～私の特集～

「広報のぼりべつ」の特集を読んでのご意見・ご感想をお寄せください。

- ご意見・ご感想は1,000字以内をお願いします。
- 住所・氏名・年齢・電話番号・匿名希望の有無を明記して、郵送またはファクスでお寄せください。

送付先

〒059-8701
登別市中央町6-11
登別市企画広報室
☎1122・FAX☎1108

登別市は平和都市を宣言しました

市は、「広報のぼりべつ」や地区懇談会などを通して市民のみなさんから寄せられた意見を参考に作成した「平和都市宣言」の文案を、平成10年9月の定例市議会に議案として提出しました。核兵器の廃絶や恒久平和の実現を願うこの文案は、9月25日(金)に議決され、登別市は「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。

今後も、市民のみなさんの意見を参考にしながら、恒久平和の取り組みを進めていきたいと考えていますので、ご意見をお寄せください。

▶問い合わせ 総務課 (☎1130)

まちを駆け抜けた美しき銀輪

9月20日(日)、「第12回ツール・ド・北海道国際大会」の第5ステージが行われ、登別市から札幌市までの間148.6kmを約60人の選手が駆け抜けました。

スタート地点の市役所前には、国内最大の自転車ロードレースを一目見ようと多くの市民が集まり、登別太鼓同好会の勇壮な太鼓演奏が行われる中、選手たちは上野市長の号砲で一斉にスタート。新登別大橋などを経由し、登別温泉街を疾走した選手たちは、登別温泉小学校のオニッコマーチングバンドによる応援演奏を励みに過酷なレースに挑んでいました。



室蘭民報社提供

まちづくりについて学びました

9月22日(火)から24日(木)までの3日間、「市民見学会」が開催されました。この見学会は、私たちのまち、登別市の姿を多くの市民に知ってもらおうと毎年行っているもので、本年度からは春と秋に行いました。

主な見学施設は、高齢社会の到来に備えた「しんた21」や「グリーンコート三愛」、「清掃工場」や建設中の「新ごみ処理施設」、民間の「産業廃棄物処理施設」、下水道処理施設の「若山浄化センター」(写真)など。

参加した市民は、福祉施設の充実ぶりやごみの分別の大切さについて、認識を新たにしていました。

平和都市宣言

世界の恒久平和は、登別市民はもとより人類共通の心からの願いであります。

しかし、現実には未だ武力による局地紛争が絶えず、加えて核兵器の存在は、人類とあらゆる生命の存続に深刻な脅威を与えています。

美しく豊かな郷土の自然を守り、平和な未来を子供たちに引き継ぐことは、わたしたちに課せられた大きな務めです。

わたしたら登別市民は、核兵器を「持たず、作らず、持たせぬ」とする非核三原則の堅持と核兵器の廃絶を求め、恒久平和の実現を願い、ここに登別市が「核兵器廃絶平和都市」であることを宣言します。

平成10年9月25日

登別市

いつでも どこでも 生涯学習

登別市が生涯学習に本格的に取り組んで10年を迎えたことを記念して「ふるさと生涯学習10周年記念フェスティバル」が9月20日(日)、川上公園を会場に開かれました。

会場では、獅子舞や駒踊りなどの郷土芸能や各種団体の活動発表が行われたほか、絞り染めや陶芸などが体験できるコーナーなどが設けられ、多くの市民でにぎわいました。また、同時開催された「市民スポーツフェスティバル」では、小中学生と一般の部の駅伝競争が行われ、選手たちは友達や親の応援を受けながら力走していました。





待望のパークゴルフ場が完成

9月27日(日)、岡志別の森運動公園(千歳町97)のパークゴルフ場がオープンし、市民140人が参加した完成記念大会「市民ふれあいパークゴルフ大会」が開かれました。

このパークゴルフ場のオープンで、平成8年から建設を進めてきた同公園は、野球場、テニスコート、パークゴルフ場、ジョギングコースを備えた運動公園として全面完成しました。

なお、パークゴルフ場は10月19日(月)から、野球場は11月1日(日)から休場のため利用することができません。来年の利用開始は5月上旬を予定しています。



水と緑をはぐくむ胆振を未来に

9月26日(土)と27日(日)の2日間、中央町のショッピングセンター・アーニスとホテル平安を会場に、「いぶり環境フェスティバルin登別」が胆振支庁、登別消費者協会、登別市の共催で開催されました。

アーニス会場では、環境保護に取り組んでいる企業や団体の紹介、環境に配慮した商品の展示、リサイクルマーケットなどが行われました。また、ホテル平安会場では、山本コウタローさんの「地球にやさしい暮らし方」と題した講演などが行われ、参加者は自然環境保護の大切さをあらためて確認していました。



旬の素材でアイデア料理

9月19日(土)、市民会館で「ふるさと料理教室」(文化・スポーツ振興財団主催)が開かれました。この料理教室は、市民に地元の新鮮な海の幸を使った料理を覚えてもらおうと開かれたものです。

参加した主婦ら29人は、この日の朝に揚がったばかりのサケとホッキ貝で「サケのかば焼き丼」「ホッキ貝のイカゴロ焼き」の二品に挑戦。講師の登別漁業協同組合婦人部のメンバー11人から、サケのさばき方やホッキ貝のむき方などを教わりながら、普段とはひと味違うアイデア料理を楽しみました。



平成10年度



登別市功労者表彰 登別市民表彰

登別市功労者表彰



えんどう みつる
遠藤 實さん(74歳)
登別本町2丁目47番地1

永年にわたり登別市議会議員として地方自治の振興に尽力され市政の発展に寄与されました。



わかさ やすひろ
若狭 泰廣さん(51歳)
富士町1丁目3番地1

永年にわたり登別市議会議員として地方自治の振興に尽力され市政の発展に寄与されました。



きくち まもる
菊地 衛さん(63歳)
常盤町1丁目34番地3

永年にわたり登別市助役ならびに登別市職員として地方自治の振興に尽力され市政の発展に寄与されました。



ながさわ すずむ
長沼 進さん(68歳)
中登別町83番地1

永年にわたり登別市収入役ならびに登別市職員として地方自治の振興に尽力され市政の発展に寄与されました。



あかがし ひろし
赤桎 長さん(65歳)
千歳町150番地

永年にわたり登別市農業委員会委員として地方自治ならびに地域農業の振興に尽力され市政の発展に寄与されました。



きた きよこ
北 キヨさん(73歳)
鷺別町6丁目30番地8

永年にわたり民生委員・児童委員ならびに登別保護区の保護司として社会福祉の向上に寄与されました。



なかち ひろし
中里 弘さん(60歳)
中央町5丁目11番地1

永年にわたり学校薬剤師として児童生徒の健康管理ならびに学校環境衛生の向上に寄与されました。

登別市功労者表彰・登別市民表彰は、登別市の行政や社会福祉などに貢献した方、また模範となる行いをされた方の功績をたたえるものです。

このたびの受賞者は、市功労者7人、市民表彰者17人・1団体（自治貢献表彰4人、社会貢献表彰12人、教育文化貢献表彰1人、篤志貢献表彰1団体）で、11月3日(火)の文化の日に市民会館で表彰式が行われます。

登別市民表彰

自治貢献表彰

岸 正治さん (64歳)
美園町2丁目8番地5

多年にわたり登別市議会議員として地方自治の振興に貢献されました。

上田 健三さん (58歳)
鷺別町5丁目3番地9

多年にわたり登別市議会議員として地方自治の振興に貢献されました。

西村 孝夫さん (51歳)
美園町6丁目25番地1

多年にわたり登別市議会議員として地方自治の振興に貢献されました。

松山 惇さん (69歳)
若山町4丁目4番地7

多年にわたり町内会長として地方自治の振興に貢献されました。

社会貢献表彰

日向 定行さん (72歳)
新生町2丁目6番地12

多年にわたり民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。

石川 壽雄さん (71歳)
美園町1丁目17番地6

多年にわたり民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。

能登 利之さん (68歳)
富士町1丁目15番地1

多年にわたり民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。

峰田 弘道さん (62歳)
鷺別町3丁目23番地2

多年にわたり民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。

深井 博二さん (62歳)
富士町4丁目34番地4

多年にわたり民生委員・児童委員として社会福祉の向上に貢献されました。

伊藤 秀男さん (57歳)
若草町5丁目5番地1

多年にわたり登別保護区の保護司として社会福祉の向上に貢献されました。

横田 稔さん (82歳)
若草町6丁目8番地4

多年にわたり老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

安藝 光義さん (79歳)
幌別町3丁目8番地1

多年にわたり老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

松田 信仁さん (77歳)
新生町5丁目2番地8

多年にわたり老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導育成に貢献されました。

中村 定雄さん (77歳)
札内町202番地1

多年にわたり老人クラブ会長として社会福祉の向上ならびに老人クラブの指導

育成に貢献されました。

齊藤 甲斐之助さん (45歳)
若草町4丁目24番地1

多年にわたり学校医として児童生徒の健康管理に貢献されるときもに予防接種医として地域医療の向上に貢献されました。

齊藤 美知子さん (47歳)
若草町4丁目24番地1

多年にわたり予防接種医として地域医療の向上に貢献されました。

教育文化貢献表彰

黒木 英明さん (57歳)
新生町3丁目4番地6

多年にわたり体育団体役員ならびに指導者として体育の振興に貢献されました。

篤志貢献表彰

有限会社 カルルス温泉

カルルス町14番地

公共用地として土地を寄付され地域の環境づくりの推進に貢献されました。

市民レポート

高齢社会を生きる

『いつまでも生涯学習』

ポランティアグループ『S.L.G.』の活動をめぐって

エスエルジー



市民リポーター

佐藤 逸夫 さん
(若草町・66歳)

郷土資料館・文化伝承館（片倉町6丁目）では、小・中学校の週休日を利用して、月に2回、さまざまな体験学習を行っています。その活動の中心となっているのが平均年齢約68歳のボランティアグループ「S.L.G.」です。

「S.L.G.」は、たづくりやひな人形づくり、しめなわづくりなど、同館で行われる体験学習の事前準備や指導をはじめ、市内の小学校などで行われる体験学習での技術指導など幅広い活動を行っています。

今回は、「老後」を心から楽しみ、高齢社会をリードしているすばらしき仲間たち「S.L.G.」（学んで生きる仲間たち）の活動をレポートしました。

年間200日以上活動

S.L.G.が結成されたきっかけは、5年前の郷土資料館体験学習事業の一つ、「竹馬づくり」にたまたま居合わせていた山下利夫さん（68歳）が「お手伝いをしましょうか」と協力を申し出てくれたのが始まりでした。当時、この郷土資料館の館長として勤務していた私は、今後、どのように体験学習事業を展開していくか模索していたところでしたので、この協力の申し出を

ありがたく受けることにしました。その後、山下さんが、近所の友達を誘い、共に活動してくれる仲間を増やし、今では男性6人、女性12人のグループになりました。

S.L.G.の活動は年間200日以上で、もちろん報酬は全く無いボランティアです。

S.L.G.の一日は、9時に郷土資料館に集まり、簡単なあいさつをして、作業開始。昼食は家で取り、13時に再度同館に来て16時まで作業を行い、帰宅します。みなさんの仕事は、段取り良く効率的で、出来上がった作品はどれもきれいで立派なものばかりです。

ボランティア活動を支えているものは何？

同館では、昔の生活を体験する際、



▲S.L.G.メンバーから話を聞きました

実際に使われていた昔の生活道具を使い、疑似体験をしながら楽しく学べるように工夫しています。

生涯学習は、学校だけに限らず、あらゆる場所と機会を活用し、地域ぐるみで実践していくことが望ましく、すべての人が自ら学んで生きることが求められています。

同館がS.L.G.と協力して行う体験学習は、木工や竹細工、紙工芸、和紙づくり、わら細工、そば打ち、染め物、織りなどさまざまで、S.L.G.の活動は、同館にとどまらず、各小学校やPTA、地域などに積極的に出かけていき、指導を行っています。

S.L.G.の石垣政蔵さん（68歳）は、「私たちの活動が続いているのは、家族の協力や理解があつてこそのもので、家庭内の不協和音があつてはなかなかできるものではありません。そして、子どもたちの喜ぶ顔があればこそ、活動を続けてこれたと思います。子どもたちが帰るときに、「おじさん、ありがとう」なんて声をかけられると「これからも頑張るぞ」と明日の活力が生まれますよ。子どもたちがものをつくる喜びを知り、その子どもたちが感動する姿を見て、親や周りの大人たちも感動を覚えます」と話してくれました。



▲城の形をした郷土資料館。手前の平屋建てが文化伝承館



▲和紙づくり体験教室で指導する石垣政蔵さん（左）



▲そば打ち体験では、山下利夫さんが熟練の技を見せます



▲陶芸教室では、皿や湯飲み、置物などをつくりました



▲昔なつかしい竹とんぼづくりでは、丁寧な指導が評判です

生涯学習は、生きがいづくりにつながる

「道路上で見知らぬ子どもたちから『トンボのおじさん』『たこのおじさん』『染め物のおばさん』と呼ばれて、ほのぼのとした気分になります」とSLGの菅原英司さん（73歳）。

SLG代表の灰原泰明さん（68歳）



▲大工仕事では本職顔負けの菅原英司さん（左）

は、「女性会員のやさしく、きめ細やかな指導には定評がありますよ。ここでのボランティア活動は初めから何でもできたわけではなく、仲間うちで研究を重ね、時には室蘭や苫小牧での学習会にも手弁当で参加した努力が実を結んだものです。特に、わらじづくりやしめ縄づくりなどは、指導者や専門の方を招いて学習会を何度も行いました。ジャンボ水鉄砲を作ったときは、



▲竹馬づくりに精を出す灰原泰明さん

市内の工場に向いて、旋盤で加工してもらったり、水道工事業者に3日間わたり夜遅くまで指導していただいたこともありました。たこのづくりの体験学習を行うため、試験的につくったたこを、まだ寒風吹きすさぶ川上公園で上げたときは、もの好きな大人たち何をしていいのかと周りの人は思ったかもしれませんね。しめ縄づくりの材料のスゲを手に入れるため、白老町や伊達市、豊浦町と調べ歩いてようやく見つけたこともありました。土地の所有者に承諾を得て刈り取ったあと、陰干しして冬まで保存するこの作業は、体力的に厳しいものがありました」と笑いながら話してくれました。

SLGのメンバーの多くが、高齢者と呼ばれる年齢の方ですが、この方たちが異口同音に言われることがあります。

「ボランティアをしているから今日の健康が保たれる。もし、ボランティアをしていなければ今の健康はありえなかった。郷土資料館・文化伝承館でのボランティア活動は私たちの生きがい」。

SLGの生き方を手本に

登別市内には、さまざまなボランティア活動に取り組んでいる方が多いと聞きます。

実際に私も、病弱の方の世話をしたり、路上のごみを拾ったり、隣近所の空き地の草刈りをしている方を見かけることが多々あります。

見返りや報酬を求めず地道な活動を続けているボランティアの方やSLGのメンバーの姿を見ると本当に頭の下がる思いです。

長年、会社という組織の一員として働き、定年退職を迎え、全く自由な環境に自分が置かれたとき、身も心も満足できる悠々自適な人生を送ることはなかなか容易ではありません。

私は、このSLGのみなさんの活動を通して、人生のどの段階でも、ちょっとした心がけて自分を変えるきっかけになることを学びました。

健康であることに感謝し、心の有り様はSLGの方たちのように豊かな「老後」を過ごせるように持って生きたいと思えます。

そして、SLGの方たちの生き方が、子どもたちとこれから「老後」を迎える方たちへ、計り知れない心の遺産を残してくれると信じています。

◎SLGの活動に関する問い合わせ
郷土資料館

(011) 881-3339



つだかつひこ
津田克彦さん

昭和43年7月生まれ。30歳。
札幌医科大学を卒業後、「ふれあい」
がオープンした平成10年4月から
勤務。作業療法士の資格を有し、
「ふれあい」のチーフとして活躍中。

「ここにいられた
お年寄りに、一日を
楽しく過ごしていた
れています。」
介護助手(2人)、運
転手兼介護助手、調
理師の8人で、医療
体制が整ったきめ細
かいサービスを提供
しています。

老人デイケア施設「ふれあい」は、
恵愛病院を運営する医療法人社団友
愛会(遠藤秀雄理事長)によって、
精神障害者社会復帰施設「ぞみ寮」
とともに、平成10年4月1日に開設
されました。

「ふれあい」は、高齢社会の本格
的な到来に対応するため、市が策定
した高齢者保健福祉計画に沿って建
設され、暖かい日差しが十分に差し
込むよう、採光に十分配慮された施
設です。

広々とした作業療法室は、リハピ
リをはじめ多目的に利用すること
ができ、また、浴室には血行を良くす
るジャグジーバス(噴流式の気泡ぶ
ろ)と、座った姿勢で入浴できるリ
フト付浴槽が設けられ、多くのお年
寄りに利用されています。

この施設では、痴ほうなどの精神
障害をもつ方や脳血管疾患などに
よる運動障害をもつ方で、日常生活に
おいて何らかの介護や介助を必要と
する方が利用することができ、専用
の送迎バスで毎日20人程度の方が利
用しています。

デイケア施設「ふれあい」のスタ
ッフは、専門医師、作業療法士、看
護婦、介護福祉士、



ふれあい

老人デイケア施設「ふれあい」
鷺別町2丁目32-1 (☎2200)

人が輝き まちがときめく



点訳活動を通じた交流を
深め、真心のボランティ
アを目指します。

仲間たち Group

登別市点訳赤十字奉仕団

「広報のぼりべつ」をはじめ、公
共団体などが発行する計画や指針な
どを視力障害者協会と協議しながら
点訳するほか、視力に障害をもつ方
が希望する小説などを点訳している
登別市点訳赤十字奉仕団。

点訳された図書は、「しんた21」
の点字図書室に保存され、視力に障
害をもつ方に貸し出ししているほ
か、市内の主な公共施設や市立図書
館に寄贈されています。

同団は、点訳技術を生かしたボラ
ンティア活動を行うことで視力に障
害をもつ方との交流と理解を深め、
福祉の増進に寄与する目的で昭和61
年3月に設立され、「しんた21」の
点字図書室を活動の拠点として、ほ
んど毎日、点訳活動を行っています。
現在の団員数は、女性28人、男
性5人の計33人で、点訳活動のほか
にも視力に障害をもつ方たちとの交
流会を行うなど幅広い活動を続けて

います。また、今年の8月には、市
が作成した「のぼりべつ市民便利帳」
の点訳版を完成させました。

「点訳時には、利用する方が理解
しやすいように配慮しました。特に、
災害時の避難場所などが記載されて
いる「防災マップ」は、利用する方
の意見を聞きながら紙質を選び、地
図の表し方などを工夫しました」と
話す委員長の伊達豊子さん。

「点訳作業は、休むことなく続け
ていかなければ身に付けることはで
きません。そのため、会員は仕事や
家庭の合間をみながら時間をつくり、
点訳活動を行っています。点訳活動
は地道で大変な作業ですが、今後も
視力に障害をもつ方との交流を大切
にし、互いの理解を一層深めていき
たいですね」とほほ笑む伊達さん。

登別市点訳赤十字奉仕団に関する
問い合わせは志賀さん(☎758
1)までどうぞ。



ちよつと ひとこと

楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクスでお寄せください。紙面上では匿名でも氏名、住所、電話番号をお知らせください。なお、個人や団体への中傷や営利を目的としたお話はご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11
☎1122 FAX1108

火葬場に手すりやスロープを設置してほしい

先日、町内の葬儀で火葬場へ行きましたが、階段には手すりが無く、お年寄りが階段を使うときにとても不便な様子でした。

また、待合室は狭く、親族の一部は入りきれないありさまだったので、手すり・スロープの設置や待合室を広げるような計画はないのでしょうか。(富士町 男性)

【お答えします】

火葬場(登別本町3丁目48)は、建設されてから25年が経過したため老朽化が著しく、市民のみなさんにはご不便をおかけしております。市としても数年前から火葬場の建て替えを計画し、待合室のスペースや設備などに配慮した近代的で利用しやすい施設の建設に向けて、基本設計の作成や建て替え用地の取得などを行っております。しかし、現在、社会問題となっているダイオキシン類が発生する可能性があるため、厚生省では実態調査を行い、ダイオキシン抑制策としての基準を平成11年度に作成することとしておりますので、この基準が示された後、財政状況などを考慮しながら建設を進めたいと考えております。

当面は、現施設を使用することとなりますが、ご指摘のありました手すりについては、ただちに設置いたしました。また、スロープについては、通路の距離が短く、急傾斜となってしまうため、設置することができませんので、ご理解をお願いします。

(市民生活部市民課)

「ふれあい」の利用者は、脳血管疾患による運動障害をもつ方が多いので、一日のメニューは常にリハビリにつながるように配慮しています。また、楽しみながら無理のないリハビリを行えるよう、みんなが参加できる風船パレーやボウリングゲーム、輪投げのほか、手芸など個人の興味を生かしたりハビリティを心掛けています。声を出すこともストレスの解消や気分転換につながりますので、レーザーディスクを使ったカラオケを取り入れています。昔の懐か

だけるようないろいろな工夫をしています。お年寄りには毎朝新しい話題を提供し、さまざまな出来事に関心を持ってもらっていただき、いつも若々しい気持ちで過ごしていただくように配慮しています。また、重度の痴ほう症の方もいらっしゃいますので、家庭での介護負担の軽減などにつながるようお世話をしています」と話す津田さん。

楽しみながらレクリエーション



しい曲とともに当時の映像が映し出されると、みなさんの表情がとても生き生きとしてきますよ。リハビリによってお年寄りが歩けるようになり、機能が回復してくると、まるで自分のことのようにうれいすね」と語る津田さんは、明日の高齢社会を見つめ、共に支え合う社会の実現に向けて活躍しています。



きくちともみ
菊池智未さん (24歳)

なかがわ歯科医院勤務

やさしさと明るさを基本に
患者さんと接しています

「歯科助手として先生の指示に従い、患者さんのだ液などを吸うバキュームの操作や口の中の洗浄などのほか、予約の受け付けなどを行っています。忙しいですが、同僚とも和気あいあいに過ごすことができ、楽しい毎日です」と話す菊池さんは、手に何か職をもった方がよいと考え、同医院に勤務して約1年になります。少々のことでは落ち込まない明るい性格で、問題に直面しても、常に前向きに取り組む菊池さん。

「子どもの患者さんを担当するときは、怖がらないように笑顔で接するよう心掛けています。これからも今の仕事を続けていきたいですね」という菊池さんの笑顔は、今日も患者さんを優しく迎えます。



単なる親ほく団体ではなく、
登別の活性化を促す組織を
目指す

札幌圏在住の登別出身者や登別にゆかりのある人たちが、ふるさと登別を応援する「札幌のぼりべつ会」。同会は、金融や流通、建設、製造、行政、教育、文化など、各界の第一線で活躍する方で構成され、会員数は100人を超えます。

「東京には平成元年に発足した、登別出身者のふるさと会」「東京登別げんきかい」があるので、札幌でもぜひ同郷の会を結成しようという声が上がりました。それも単なる親ほく団体ではなく、登別の活性化を促す組織として。私は登別出身者ではありませんが、約20年間暮らしたこの登別を「第二のふるさと」と思っています。会の設立に多くの方が賛同してくれたのも、登別に愛着があるからこそだと思いますね。」

ビジネスチャンスを見つけ る場、それが「札幌のぼり べつ交流プラザ」

札幌のぼりべつ会と登別市内の企業関係者が情報交換を行う「札幌のぼりべつ交流プラザ」。同プラザでは、分科会での意見交換や会員による登別市内の企業視察、市や商工会議所などを通して地元企業関係者らと交流を行うなど、まちづくりや企業の活性化



▲昨年開催された「交流プラザ」での分科会

に向けたさまざまな取り組みが行われています。また、昨年には同プラザがきっかけとなって、登別市内の食品製造業者や土産物店などの物産品が、札幌のデパートで開催された物産展に出品されたり、郵政局の贈答品に利用されたりするなど、地元物産品の販路拡大に大きな成果を収めました。

「交流プラザはきっかけの一つ。登別には優れた企業がたくさんあり、私たちは「ふるさと」の企業にビジネスチャンスを提供しただけですが、これからも登別との交流を密にし、互いに情報を交換しながら、会としてできる限りのことを続けていきます」と「ふるさと登別」にエールを送る神鳥さん。

なお、札幌のぼりべつ会の活動に関する問い合わせは、企画広報室（☎011-222-1122）までどうぞ。



昭和8年1月生まれ。65歳。

昭和32年、北海道コンクリート工業株（本社・札幌）に入社し、今年6月に退職するまでの約20年間、登別工場勤務。7月からピケンワーク株（新栄町）常勤顧問として活躍中。

きらり

KIRARI

かんどりつねお

神鳥恒夫さん（中央町）

登別出身者や登別にゆかりのある札幌圏在住者によるふるさと応援団「札幌のぼりべつ会」が平成8年10月に発足し、今年で3年目を迎えました。

長引く不況の中、ふるさと登別の活性化のため、主に経済交流の面から地元企業を応援する同会会長の神鳥さんに話を聞きました。

古里への熱き思いを
込め、エールを送る
地元企業の応援団

あらかると

市宮陸上競技場トイレ・

駐車場を整備します

教育委員会は、老朽化した市宮陸上競技場のトイレを建て替えるとともに、陸上競技場を利用する方のための駐車場を舗装します。完成は、平成11年3月中旬を予定しています。

▼問い合わせ

社会教育課 (☎1100)

住所を表示する

プレートを配布します



市は、家屋などの所在を分かりやすくするため、毎年、家屋表示板を配布しています。なお、配布時期は11月中を予定しています。

▼配布対象地区

富岸町、若山町、大和町、緑町、青葉町、桜木町、新川町、片倉町、富士町、柏木町、中央町、常盤町

※古い表示板は取り外してください。また、配布されなかった方はお問い合わせください。

▼問い合わせ

都市計画課 (☎4115)

「どうせなら」の皮で

人形作り 参加者募集

▼月日 11月14日(土)

▼時間 10時～11時45分

▼場所 郷土資料館・文化伝承館

▼対象 小中学生、父母

▼募集人数 50人(申込順)

▼参加料 小中学生無料、大人190円

▼申し込み・問い合わせ 11月11日(水)～11月2日(月)・4日(木)・9日(月)を除く

までに郷土資料館 (☎1339)

ご協力ください!

難民の方に衣料を送ります

のぼりべつ国際交流会は、アジア・アフリカの人々に衣料を送ります。家庭で使われていない衣料やシャツ、タオルケットなどがありましたら譲ってください(ただし、スカート、ワンピース、靴下、布巾などは取り扱えません)。また、衣料は洗濯済みのもの、下着類、シャツ、タオルケットは未使用のものに限ります。詳しくはお問い合わせください。

▼日時 11月22日(日) 10時～15時

▼受付場所 婦人センター、市民会館、鷺別公民館

▼持参方法 最大りんご箱程度の段ボール箱に入れてください

▼費用 1箱につき500円(輸送料)

▼問い合わせ のぼりべつ国際交

11月11日～11月17日は「税を知る週間」です

「暮らしを支える税」をテーマに、税の意義や役割について理解を深めていただくため、市内の小中学生による「税に関する作品展」を開催します。

▼月日 11月12日(木)・13日(金)

▼時間 10時30分～16時

▼場所 登別サテ

▼内容 市内の小中学生による税に関する標語と書道の展示

▼問い合わせ 室蘭税務署 (☎4151)

家事家計講習会参加者募集

～室蘭友の会～

▼日時・場所

日 時	場 所
11月17日(火) 10:00～12:00	若草つどいセンター、婦人センター
11月20日(金) 10:00～12:00	登別中央教会 中教福音会

▼内容 家計簿記帳者の体験発表、おいしい調味料などの講習会

▼参加料 400円

▼託児料 100円

▼申し込み・問い合わせ 広田さん (☎4708)

流会事務局・田中さん (☎7486)

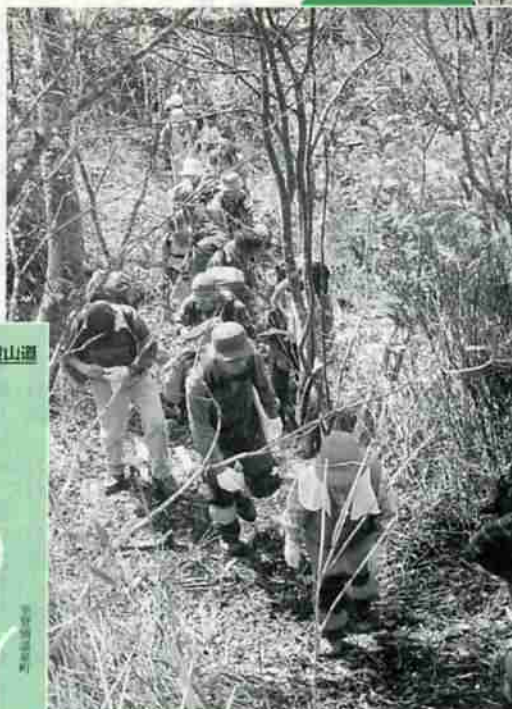
登別市親子文化祭

楽しいコーナーがいっぱい

とき・11月28日(土) ところ・幌別中学校(千歳町3丁目1-3)

コーナー	内 容	時 間	定 員	対 象	会 場
親子おもしろ工作コーナー (受付9:30)	紙ねんど教室	10:00～12:00	50人(申込順)	5歳以上	3-A教室
	はた織り教室		30人(申込順)	小学生以上	3-B教室
	たこ作り教室		40人(申込順)	5歳以上	3-C教室
	こけしの絵付け教室		30人(申込順)	小学生以上	2-A教室
	竹とんぼ作り教室		30人(申込順)	小学4年生以上	2-B教室
ちびっこ広場コーナー	何が出るかお楽しみ	10:00～12:00	なし	幼 児	2-C教室
老人大学研究科コーナー	紙 芝 居	10:00～12:00	なし	市 民	玄関ロビー
	ハーモニカ演奏		なし	市 民	玄関ロビー
作品展コーナー	家庭教育学級作品展	9:00～15:00	なし	市 民	玄関ロビー
児童劇コーナー (開場13:00)	「貧乏神と福の神」	13:30～14:30	なし	市 民	体育館

申し込み 文化・スポーツ振興財団 (☎1116) 問い合わせ



このまちが 好き

来馬岳「新登山道」 が開設されました

鉾山町側から来馬岳に登ることができ、「新登山道」が、登別山岳会と登別市役所山岳部の会員らにより今年9月に開設され、10月4日(日)には、これを記念するファミリー登山会(財登別市文化・スポーツ振興財団、登別山岳会共催)が開かれました。

新登山コースの登山口は、鉾山町の鉾山橋手前を右に折れ、約4km進んだところにあり、登山口から頂上までは、片道約6km、約3時間の道のりで、途中にはカムイヌプリや鷲別岳、幌別ダム、幌別市街地などを望むことができます。

この登山コースの完成により、鉾山町からカルルス町に抜けることができるようになります。

登山の後は、カルルス温泉に入って疲れをいやしてはいかがでしょうか。

▼問い合わせ 市役所企画広報室・広報担当(☎011-221112)

となりまち

ホットライン

室蘭市

「NHKひるの散歩道」見学者募集

NHK室蘭放送局は、白鳥大橋開通記念の一環として、ラジオ番組「NHKひるの散歩道」の公開録音を行います。

▼日時 11月27日(金) 開場17時、開演18時

▼場所 室蘭市文化センター大ホール

▼出演者 ゲスト歌手：山本譲二、城之内早苗ほか

▼申込方法 往復はがき(1人1枚)に、住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、11月10日(火) (必着)までに申し込みください(申込多数の場合は抽選)

▼申し込み・問い合わせ 〒051-0012 室蘭市山手町1-3-50 NHK室蘭放送局「ひるの散歩道」係(☎27271)

伊達市

開拓記念館秋季特別展

「伊達の二大縄文遺跡群を掘る」

伊達市内で今年発掘された縄文遺跡の出土品をご紹介します。展示品は、噴火湾沿岸初の続縄文時代(2千年前)の竪穴式住居跡が発掘された「有珠ポツマ遺跡」と、国内最古で最大の水場遺構(縄文前期・中期・5千500年前〜4千500年前)が発掘され注目を浴びている「国指定史跡・北黄金貝塚」の遺物(土器・石器・骨格器等、写真パネルなど)です。

▼日時 11月17日(火)〜29日(日) 8時50分〜17時

▼場所 伊達市開拓記念館(伊達市梅本町62)

▼入場料 小学生100円、中学生150円、大人200円

▼問い合わせ 伊達市教育委員会文化課

(☎014221515)

